資料５－１

平成 27 年 12 月 4 日

全農山口県本部の取組みについて

１．計画的な配送の取組みについて

- 予約のとりまとめ
- 必要な時期に計画的に配送

２．労働力軽減の取組みについて

- パレット積み配送
- レンタルパレットの活用

ドライバー労働時間改善の取組みについて

積水ハウス（株）山口工場

着眼ポイント

①ドライバー作業環境改善に向けた協力体制の構築
②配送モード（幹線ー地域）切替概念
③積込計画＆見える化によるムダの削除
④車両台数削減

① ドライバー拘束時間短縮のための共同改善に向けた体制構築

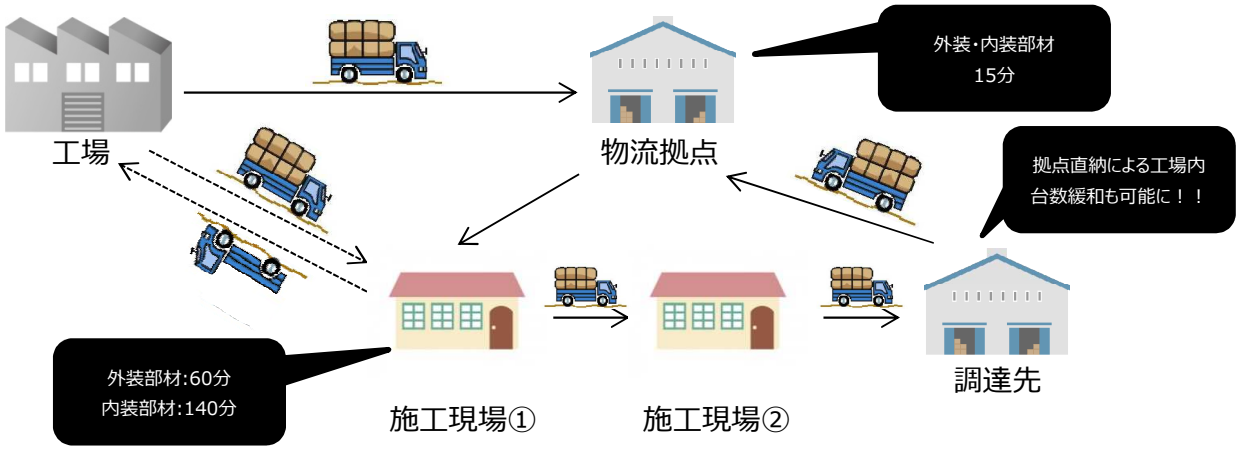
ドライバー拘束時間短縮に向け、運送会社と荷主企業が連携して改善しなければならないと考えており、以下のような観点で定例会（２回/月）を実施しています。

1. 安全、品質の向上
2. 積込時間短縮に向けた改善
3. 荷降ろし作業に対する改善
4. 改善に対するフォロー

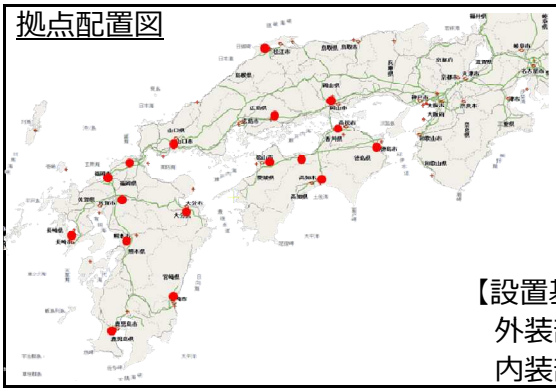
定例会でいろいろな検討課題を出し合い、改善活動を実施できる体制が構築できました。

② 物流拠点設置による荷降ろし作業時間の短縮

当社山口工場の出荷範囲は中国・四国・九州と幅広いエリアであり、拘束時間の大半は移動時間となっています。また、施工現場での荷降ろしに焦点を当てると外装部材60分/台、内装部材140分/台と時間がかかっており、こちらも拘束時間の中で占める割合が大きくなっています。これは、施工現場の敷地状況によって荷降ろしの仕方が異なっている影響があるからです。
そこで、物流拠点を新設し「幹線と地域」というモード切替を行う配送モデルへシフトすることを検討しました。この検討には、顧客の需要がどのエリアにあるのか部材特性による荷降ろし時間の関係などをデータ分析するこで、物流拠点の設置場所を決定しました。また、地域配送は少ない車両で配送できるように回転率を上げる施策として、施工現場の工程段取りを調整してもらい午後配送も実施できるようにしました。



拠点配置図



幹線車両はウイング車でも配送可能のため、シート掛け時間短縮にもなっています。

【設置基準】
外装部材：ボリュームゾーン及び近距離・遠距離の関係
内装部材：各県　※荷降ろしに時間がかかるため

③ トラック積込順番の計画および見える化による改善

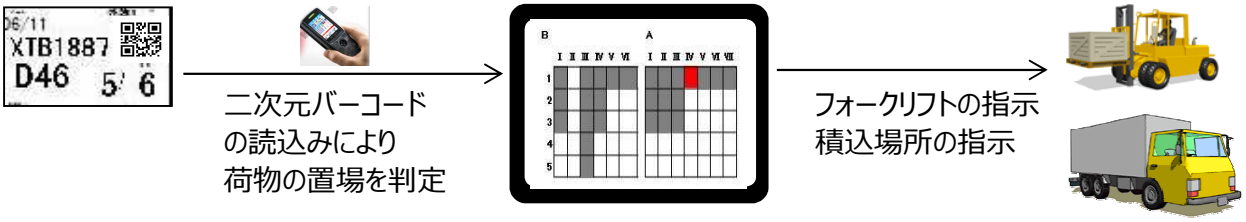
トラック入場管理システム（ダイアグラム化）を導入後、どの時間帯に積込が集中しているか、また、積込時間がどれくらいかかっているか実態の数字が見えるようになりました。これにより以下のような改善に取り組みました。

Ⅰ．事前荷造りによるドライバー手待ち時間の短縮

ダイアグラム導入前はトラック入場後に荷造りを開始して積込していましたが、入場順番が決まっているため事前に荷造りをしておくことが可能となり、積込時間の短縮となりました。
また、受付時にドライバー携帯電話を登録することによりドライバーとの連絡もタイムリーに実施でき、積込場所呼込みにおける手待ち時間の短縮に繋がっています。

Ⅱ．ローケーション管理

事前荷造りした荷物も置場がわからないと効果半減です。荷物をどこに取りに行けば良いのか？また、どこに積込に行けば良いのか指示ができてこそ最大限の効果を発揮できます。そこで入場管理システムと連動したロケーション管理システムを導入し荷物の可視化を図りました。これによりスムーズな作業を可能としました。

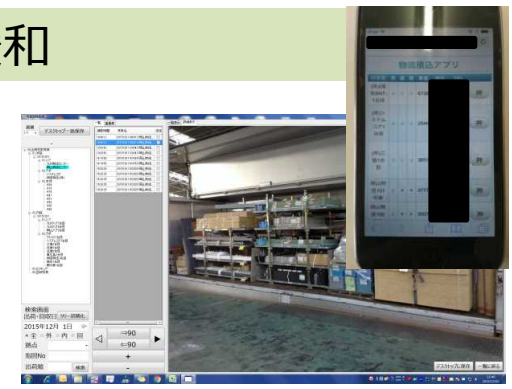


Ⅲ．脱着式車両の有効活用

配送を終えて次の荷物を積込に入場する時間帯は13時～15時に集中している状況となっています。この時間帯には場内でトラックが溢れかえる状況となり、ドライバーの手待ち時間を増幅させています。
積込が少ない午前中に積込作業を行う改善策として、運送会社で所有している脱着式車両を有効に使い、集中している時間帯を避ける（作業分散）ことができ、手待ち時間の短縮となりました。

④ 車両台数の削減による厳しい運行計画の緩和

運送会社としてもトラック台数がギリギリの状況と余裕がある状況では運行計画にも違いが出てきます。荷主としても、台数削減は物流費の削減となり企業の本質でもある利潤追求にもなります。
そこで、安全・品質・積載効率を確認するツールとして邸情報と積載写真が連動して確認できるシステムを導入しました。
（荷主・運送会社ともに確認可能）
また、積込・荷降ろし時間の短縮も視野に入れながら新規パレットの導入も実施しています。



⑤ 現在の活動およびお願い

- 拠点配送の拡大化（遠方の南九州エリアなど）
- 積込作業指示書の改善による積込待ち時間の短縮
- 出荷の平準化推進（棟数レベルから日々の台数レベルへ）
- 高速道路の深夜割引適用時間の拡充（例：22:00～8:00など）